

Eureka XIII

六年制通信 No.26 令和7年11月14日(金)号

一枚の紙は薄いけど

「継続は力なり」はよく耳にしますが、マラソンの君原選手の「一枚の紙は薄いが、重ねていけば本になる」など、おしゃれな割に人口に膾炙しているとは言い難いですね、残念ながら。「塵も積もれば山となる」は全く面白みがないですが、これら、物事は途中でやめてはいけない、続ければ大きな力になるという趣旨の言い回しあたくさんあります。ということは、つまり継続の大切さを強調する表現が多くあるということは、これらの言葉にすがって生きている人が多いということでもあり、人は物事を継続するのが難しいということを表してもいます。

「継続は力なり」の英訳としては To go on is to go up. が最も有名でしょうが、他に同じ趣旨で A man is not finished when he is defeated; he is finished when he quits. という表現もあります。「負けたから終わるのではない。やめたらそのとき終わりなのだ」くらいの意味ですが、全くその通りだと思います。これは、「負けたら」を「失敗したら」に変えてみると理科系の実験にもよく通じる話で、成功の秘訣を「成功するまで止めないことだ」と言い切った科学者を思い起こさせますね。1000回の実験で成功したものを、999回で止めてしまったとしたら、それは0と同じことです。999回は無駄になってしまいます。途中でやめるなら1回目でやめても999回目でやめても結果は変わらないわけで、それなら成功するまで続ければいいと、口で言うのは簡単ですがこれが非常に難しいであろうことは容易に想像できますね。多くの場合、そう簡単に実験が成功することはないのですから。継続するには途方もない「粘り」が必要なのですね。継続の大切さを強調する表現が多いはずですね。

何度も言いますが、本居宣長も「勉強の仕方などどうでもよい、結局はサボることなく緩むことなく勉強を続けることが大切だ（＝倦まず怠らず励み勤むことこそ肝要なれ）」と言っています。『古事記伝』に35年の歳月をかけた人の言葉です。

他にも、ちょっと怖いような言葉に「涓滴岩を穿つ」という表現があります。「涓滴（けんてき）」とは「水のしづく」、「穿つ（うがつ）」は「穴をあける」です。「雨垂れ石を穿つ」という表現もありますが、途絶えることなく注ぐ水のしづくは、やがて大きな岩にも穴をあける、という意味で、小さなことでも継続していれば大きなことに繋がる、だから諦めてはいけないといった教訓ですね。これらは実際の恐るべき自然の力をもとに「継続は力なり」を言い表しています。何万年の歳月をかけて完成される鍾乳洞にも同じことが言えますね。岩に穴があいたり鍾乳洞が出来上がったりと、これらは完成までの時間が長すぎてピンと来ないかもしれません。しかし、「継続は力なり」

には違いありません。私たちの生活あるいは人間の営みにおいて、その一滴が何を指すのかは人によって違うでしょうが、毎日の「一滴の」積み重ねが岩を穿つほどの威力を持っているのだということは知っておいていいでしょう。私の尊敬する哲学者もまた、動機は何でもいい、長い時間をかけて続けることが全てだと教えて下さいました。

そう考えると、受験勉強など頑張っても3年程度のことですから、人生のスパンから言えば「継続は…」には当たらないのかもしれませんね。君たちにとって本当の意味での「継続」は、これから先の人生に訪れるのではないかと思います。仕事を持ったときに、職人さんが延々と作品に取り組むように、君たちは継続して行うものを持つことでしょう。あるいは仕事以外に何らかの「継続」を持つかもしれませんね。ですから「大学を選ぶための受験勉強」の本当の意味は、自分が一生をかけて続けていくものを手に入れるために行う、というのが正しいのかもしれません。

そう言えば、私の好きな作品、吉川英治の『宮本武蔵』にこんなシーンがあります。修行半ばの宮本武蔵が、非常な苦しみの中で沢庵和尚に尋ねるわけです。この苦しみを続けなければいけないのかと。もちろんそうだ、沢庵は答えます。では、途中でやめてしまったらどうなるのか、さらに問う武蔵に沢庵ははつきりと断言します。最も始末に負えない馬鹿者が出来上がる、と。1年や2年の熱狂は誰にでも持てますが、長い時間をかけて情熱を傾けることは簡単ではないですよね、しつこいけれど。

さて、継続するためのヒントとしては、孔子の言う「知る者は好む者に勝てない、好む者は楽しむ者に勝てない」でしょうかね。苦しいことでも「楽しむ領域」に心を持って行くと継続は苦にならない、孔子はそう言っているように思います。

今週のおすすめ

- ・森沢明夫 『おいしくて泣くとき』 (ハルキ文庫)

この本は以前にも紹介しましたが、最近映画を観たので、もう一度紹介したくなつたのでした。まだ読んでいない人は是非手に取って下さい。いい物語です。

それに、この映画に出演している丸山真亜弥という女優さんが三重中学校の卒業生なのです。私は全力で応援中です。最初の方で主人公夕花（當真あみさんね）のクラスメイト役で出演していました。セリフは「助け合うのがトモダチじやん」でしたかな。超かわいいからすぐわかります。ちゃんとエンドロールにも名前がありました。そういうえば、前に「ノイズ」という映画で黒木華さんの中学生時代を演じていましたな。キャリアを積んでいるところですね。皆さんも応援よろしくお願ひします。

ちなみに松阪に帰省すると、よく学校に寄ってくれるのですよ。二年前に書いてもらったサインが校長室に飾ってあります。練習中だと言っていたサインです。

これ、映画も割といい出来なのですが、残念なのが大人になった心也（もう一人の主人公ね）を演じた俳優さんです。誰とは書きませんが、下手です。

心也の父親役の安田顕は原作のイメージ通りでした。ラストシーンは女優さんの凄さが伝わりますよ。是非ご覧ください。でも原作の勝ち、かな、やっぱり。

BGMは Uru の フィラメント でした…。